

2021年度
金沢学院大学
学生の学修状況・学修成果等の検証
報告書

2022年3月31日
金沢学院大学

I. アドミッションポリシーの評価

1. 評価資料

1-1. 一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか（表1参照）

入学直後に実施した学内共通の基礎学力確認テスト（英語・数学）の総合成績の平均を、大学全体・短期大学全体・学科別に算出し、さらに学科内で入試区分別に分類して平均を算出した。これらの平均を、大学全体の平均と比較して+5点以上のものを「学内平均を上回った」、±5点の範囲のものを「学内平均と同程度」、-5点以下のものを「学内平均を下回った」と表記した。

大学全体の基礎学力確認テストの受験者は852名（昨年度比+60名）であった。平均点は、英語（35点満点）が19.1点（ $SD=6.59$ ）で昨年度比-0.5点、数学（30点満点）が22.7点（ $SD=4.32$ ）で昨年度比±0.0点、2科目の総合成績（65点満点）が41.8点（ $SD=9.67$ ）で昨年度比-0.6点であった。ただし、昨年度の基礎学力確認テストは、新型コロナウイルス感染症への対策としてガイダンスの短縮等を図ったため、入学直後にすべてのテストを実施した学科と、入学直後には英語のみを実施して、前期末に数学を追加実施した学科がある。そのため、今年度の成績との比較には注意が必要である。

1-2-1. 学ぶ意欲のある学生が入学してきたか（表2-1, 2-2参照）

入学直後に実施した新入生向けのアンケート（全23項目）から、学修意欲と学修への興味関心を問う2つの質問項目を取り出して、選択肢ごとの人数比率を大学全体と学科別に算出した。分析対象とした項目は、

項目2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」

- ①とても持っている ②まあまあ持っている ③あまり持っていない ④持っていない

項目23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」

- ①一致している ②一致していないが、興味関心に近い分野 ③興味関心とは異なる分野
④まだ自分の興味関心がわからない ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない
⑥その他

である。

集計の際、回答ミス等の欠損値を削除して比率を算出したため、それぞれの質問項目の総回答数は一致しない。また、2020年度は新型コロナウイルス感染症への対策として新入生の登校を制限したことから、このアンケートが未実施であるため、昨年度との比較はできない。

学修意欲を尋ねる項目2の有効回答数は、大学全体で852名分であった。回答の内訳は以下の通りである（表2-1）。

- ①とても持っている：384名（45.1%）
②まあまあ持っている：433名（50.8%）
③あまり持っていない：28名（3.3%）

④持っていない：7名（0.8%）

選択肢①と選択肢②の合計は 95.9%であり、大学全体で見た場合は、入学後の学修に対して意欲的な学生が入学してきたと言える。

入学した学科の学問分野と興味関心の一致の程度を尋ねる項目 23 の有効回答数は、大学全体で 850 名分であった。回答の内訳は以下の通りである（表 2-2）。

- ①一致している：638名（75.1%）
- ②一致していないが、興味関心に近い分野：128名（15.1%）
- ③興味関心とは異なる分野：17名（2.0%）
- ④まだ自分の興味関心がわからない：54名（6.4%）
- ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：11名（1.3%）
- ⑥その他：2名（0.2%）

選択肢①と選択肢②の合計は 90.1%であり、大学全体で見た場合は、これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言える。

1-2-2. これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか（表 3-1, 3-2, 3-3 参照）

入学直後に実施した新生向けのアンケート（全 23 項目）から、今後の学修や大学生活への期待感、大学生活へのイメージの有無を問う 3 つの質問項目を取り出して、選択肢ごとの人数比率を大学全体と学科別に算出した。分析対象とした項目は、

項目 4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」

- ①とても楽しみ ②まあまあ楽しみ ③あまり楽しみではない ④楽しみではない

項目 9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」

- ①ある ②まあまあある ③あまりない ④ない

項目 22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」

- ①とてもそう思う ②どちらかといえばそう思う
- ③あまりそう思わない ④まったくそう思わない

である。

集計の際、回答ミス等の欠損値を削除して比率を算出したため、それぞれの質問項目の総回答数は一致しない。また、2020 年度は新型コロナウイルス感染症への対策として新生の登校を制限したことから、このアンケートが未実施であるため、昨年度との比較はできない。

大学生活への期待感を尋ねる項目 4 の有効回答数は、大学全体で 852 名分であった。回答の内訳は以下の通りである（表 3-1）。

- ①とても楽しみ：288名（33.8%）
- ②まあまあ楽しみ：491名（57.6%）
- ③あまり楽しみではない：66名（7.7%）

④楽しみではない：7名（0.8%）

選択肢①と選択肢②の合計は 91.4%であり、大学全体で見た場合は、これからの学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

今後の大学生活へのイメージ形成の程度について尋ねる項目 9 の有効回答数は、大学全体で 850 名分であった。回答の内訳は以下の通りである（表 3-2）。

①ある：107名（12.6%）

②まあまあある：381名（44.8%）

③あまりない：316名（37.2%）

④ない：46名（5.4%）

選択肢①と選択肢②の合計は 57.4%である。大学全体でも学科別でも、最も回答が多くなるのは選択肢②または選択肢③である。今後の大学生活へのイメージは、一部の学生ではできあがっているが、その程度がやや低い学生も 4 割程度いることがわかる。当該の学年が高校 3 年生であったときに新型コロナウイルス感染症が広がり、オープンキャンパスなどの進学イベントに十分参加できなかったことも影響している可能性がある。

この大学で学び続けられそうか（入学してよかったと思うか）を尋ねる項目 22 の有効回答数は、大学全体で 851 名分であった。回答の内訳は以下の通りである（表 3-3）。

①とてもそう思う：311名（36.5%）

②どちらかといえばそう思う：478名（56.2%）

③あまりそう思わない：52名（6.1%）

④まったくそう思わない：10名（1.2%）

選択肢①と選択肢②の合計は 92.7%であり、大学全体で見た場合は、本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

表 1. 基礎学力確認テストの学科別成績一覧

英語	人数	平均	<i>SD</i>	最高	最低
文学科	188	21.1	6.17	35	6
教育学科	90	20.9	6.53	33	3
経済学科	79	18.8	6.43	33	7
経営学科	77	15.9	5.45	31	7
経済情報学科	79	17.7	5.78	32	6
芸術学科	85	20.2	6.74	33	4
スポーツ科学科	171	15.8	6.00	34	4
栄養学科	83	22.7	5.68	33	9
全体	852	19.1	6.59	35	3

数学	人数	平均	<i>SD</i>	最高	最低
文学科	188	23.3	3.86	30	12
教育学科	90	23.9	3.98	30	8
経済学科	79	23.7	4.06	30	13
経営学科	77	21.5	3.90	29	11
経済情報学科	79	22.2	5.18	29	8
芸術学科	85	22.3	4.54	30	10
スポーツ科学科	171	21.1	4.55	30	10
栄養学科	83	24.9	2.84	30	16
全体	852	22.7	4.34	30	8

総合（英語+数学）	人数	平均	<i>SD</i>	最高	最低
文学科	188	44.4	8.52	63	18
教育学科	90	44.8	9.47	60	11
経済学科	79	42.5	9.48	61	22
経営学科	77	37.3	7.89	55	19
経済情報学科	79	39.8	9.74	59	19
芸術学科	85	42.4	10.28	63	18
スポーツ科学科	171	36.8	9.10	63	18
栄養学科	83	47.6	7.32	61	28
全体	852	41.8	9.67	63	11

表 2-1. 項目2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」への回答

回答	文	教育	経済	経営	経情	芸術	スポ	栄養	全体
とても持っている	44.1	62.2	36.7	28.6	35.4	47.1	41.5	66.3	45.1
まあまあ持っている	53.2	32.2	58.2	62.3	62.0	51.8	52.0	33.7	50.8
あまり持っていない	2.7	4.4	5.1	7.8	2.5	1.2	3.5		3.3
持っていない		1.1		1.3			2.9		0.8

表 2-2. 項目23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」への回答

回答	文	教育	経済	経営	経情	芸術	スポ	栄養	全体
一致している	78.2	82.0	57.0	61.8	48.1	80.0	84.2	91.6	75.1
一致していないが、 興味関心に近い分野	13.3	7.9	21.5	19.7	34.2	15.3	10.5	7.2	15.1
興味関心とは異なる 分野	2.1	5.6	3.8	1.3	5.1				2.0
まだ自分の興味関心 がわからない	5.3	3.4	16.5	15.8	8.9	3.5	2.9	1.2	6.4
入学した学部・学科・ 専攻の内容がよくわ からない	1.1		1.3	1.3	3.8	1.2	1.8		1.3
その他		1.1					0.6		0.2

表 3-1. 項目4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」への回答

回答	文	教育	経済	経営	経情	芸術	スポ	栄養	全体
とても楽しみ	31.4	37.8	31.6	31.2	27.8	38.8	38.6	30.1	33.8
まあまあ楽しみ	58.0	55.6	57.0	59.7	63.3	51.8	53.8	66.3	57.6
あまり楽しみではない	9.6	4.4	11.4	7.8	8.9	8.2	7.0	3.6	7.7
楽しみではない	1.1	2.2		1.3		1.2	0.6		0.8

表 3-2. 項目9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」への回答

回答	文	教育	経済	経営	経情	芸術	スポ	栄養	全体
ある	7.4	10.0	8.9	14.3	17.9	4.7	23.4	9.8	12.6
まあまあある	42.6	44.4	50.6	40.3	38.5	40.0	46.2	57.3	44.8
あまりない	42.6	40.0	36.7	40.3	39.7	47.1	25.1	31.7	37.2
ない	7.4	5.6	3.8	5.2	3.8	8.2	5.3	1.2	5.4

表 3-3. 項目19「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったですか」への回答

回答	文	教育	経済	経営	経情	芸術	スポ	栄養	全体
とてもそう思う	29.8	36.7	34.2	35.5	29.1	35.3	47.4	41.0	36.5
どちらかといえばそう思う	63.3	55.6	53.2	56.6	58.2	63.5	46.2	54.2	56.2
あまりそう思わない	4.8	6.7	11.4	6.6	10.1	1.2	6.4	3.6	6.1
まったくそう思わない	2.1	1.1	1.3	1.3	2.5			1.2	1.2

2. 各学科の評価

2-1. 文学部

2-1-1. 文学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】英語：21.1 ($SD = 6.17$)，数学：23.3 ($SD = 3.86$)，総合 44.4 ($SD = 8.52$)

文学科の基礎学力確認テストの受験者数は 188 名（昨年度比+11 名）であった。英語と総合成績は大学平均より 2 点以上高くなったが、数学は大学平均に対して+0.6 点で、大学平均並みであった。総合成績の平均は 44.4 点 ($SD = 8.52$) で、大学平均 (41.8 点) よりも 2.6 点高いが、昨年度比では-1.3 点であった。昨年度と比較して、ほぼ同等の学力を備えていると言える。学科間の比較では大学全体の中で上位から中位に位置すると言える。

入試区分別では、共通テスト利用選抜で入学した受験者の成績が高く、学内偏差値が 58.5 となった。この区分の受験者の比率は 16.5%である。この他、一般選抜の受験者（学内偏差値 54.9）と公募制推薦（併願制）の受験者（学内偏差値 54.5）で、やや高めの成績が出ている。一方、学内偏差値が 45 に届かない入試区分もあり、これらの区分の受験者は学科の 10.6%であった。

総合成績において、大学平均以上または大学平均並みの受験者は学科の 80.9%で、昨年度比では 1.2 ポイント上がった。大学平均-1 標準偏差以下（受験者全体の低位 15.93%）に相当する受験者の比率は 10.1%で、昨年度よりも 3.3 ポイント上がった。

評価

基本的な学力にややばらつきはあるものの、大学での学修に必要な基礎学力は備えていると言える。したがって、基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

項目 2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」（表 2-1）

有効回答数：188 名分

- ①とても持っている：83 名 (44.1%)
- ②まあまあ持っている：100 名 (53.2%)
- ③あまり持っていない：5 名 (2.7%)
- ④持っていない：0 名 (0.0%)

選択肢①と選択肢②の合計は 97.3%で、大学全体の数値 (95.9%) とほぼ同じであった。「持っていない」と回答した入学者はおらず、学修意欲がある学生が入学したと言える。

項目 23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」（表 2-2）

有効回答数：188 名分

- ①一致している：147 名（78.2%）
- ②一致していないが、興味関心に近い分野：25 名（13.3%）
- ③興味関心とは異なる分野：4 名（2.1%）
- ④まだ自分の興味関心がわからない：10 名（5.3%）
- ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：2 名（1.1%）
- ⑥その他：0 名（0.0%）

選択肢①と選択肢②の合計は 91.5%であり、大学全体の数値（90.1%）とほぼ同じであった。これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言える。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

項目 4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」（表 3-1）

有効回答数：188 名分

- ①とても楽しみ：59 名（31.4%）
- ②まあまあ楽しみ：109 名（58.0%）
- ③あまり楽しみではない：18 名（9.6%）
- ④楽しみではない：2 名（1.1%）

選択肢①と選択肢②の合計は 89.4%であり、大学全体の数値（91.4%）よりもやや低くなった。学科全体の約 90%が、これからの大学生活を楽しみにしていると回答しており、今後の学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

項目 9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」（表 3-2）

有効回答数：188 名分

- ①ある：14 名（7.4%）
- ②まあまあある：80 名（42.6%）
- ③あまりない：80 名（42.6%）
- ④ない：14 名（7.4%）

選択肢①と選択肢②の合計は 50.0%である。大学全体の数値（57.4%）よりも低く、半数の学生が今後の大学生活へのイメージを持っていないことを示している。この項目で問うているのは学修行動のみではないが、今後の指導に留意する必要があるかもしれない。

項目 22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」（表 3-3）

有効回答数：188 名分

- ①とてもそう思う：56 名（29.8%）
- ②どちらかといえばそう思う：119 名（63.3%）

③あまりそう思わない：9名（4.8%）

④まったくそう思わない：4名（2.1%）

選択肢①と選択肢②の合計は93.1%であり、大学全体の数値（92.7%）とほぼ同じであった。80%以上の学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

評価

学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。ただし、今後の学生生活へのイメージ形成の低さについては、指導に留意する必要がある。

総合評価

以上の分析から、文学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

2-1-2. 教育学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】英語：20.9（ $SD = 6.53$ ）、数学：23.9（ $SD = 3.98$ ）、総合44.8（ $SD = 9.47$ ）

教育学科の基礎学力確認テストの受験者数は90名（昨年度比+6名）であった。英語、数学、総合成績のいずれも大学の平均を上回った。総合成績の平均は44.8点47.7点（ $SD = 9.47$ ）で、大学平均（41.8点）よりも3.0点高いが、同学科の昨年度比では-2.9点であった。昨年度と比較して、ほぼ同等の学力を備えていると言える。学科間の比較では大学全体の中で上位に位置すると言える。

入試区分別では、共通テスト利用選抜（学内偏差値62.7）、一般選抜（学内偏差値58.8）、附属高校特別選抜（学内偏差値56.9）の成績が高く、これら3つの区分の受験者の比率は学科の43.3%である。一方、学内偏差値が45に届かない入試区分もあり、この区分の受験者は学科の17.8%であった。

総合成績において、大学平均以上または大学平均並みの受験者は学科の83.3%を占めるが、昨年度比で1.2ポイント下がった。大学平均-1標準偏差以下（受験者全体の下位15.93%）に相当する受験者の比率は、10.0%で、昨年度よりも1.7ポイント上がった。

評価

基本的な学力は学内でも比較的高い方に位置する学科である。大学での学修に必要な基礎学力は備えていると言える。したがって、基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

項目 2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」（表 2-1）

有効回答数：90 名分

- ①とても持っている：56 名（62.2%）
- ②まあまあ持っている：29 名（32.2%）
- ③あまり持っていない：4 名（4.4%）
- ④持っていない：1 名（1.1%）

選択肢①と選択肢②の合計は 94.4%で、大学全体の数値（95.9%）とほぼ同じであった。学修意欲があると回答した学生が 90%を超えており、学修意欲のある学生が入学したと言える。

項目 23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」（表 2-2）

有効回答数：89 名分（無効 1 名）

- ①一致している：73 名（82.0%）
- ②一致していないが、興味関心に近い分野：7 名（7.9%）
- ③興味関心とは異なる分野：5 名（5.6%）
- ④まだ自分の興味関心がわからない：3 名（3.4%）
- ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：0 名（0.0%）
- ⑥その他：1 名（1.1%）

選択肢①と選択肢②の合計は 89.9%であり、大学全体の数値（90.1%）とほぼ同じであった。教育学科は、小中学校の教員や幼稚園教諭、保育士など、卒業後の進路が明確な学科であり、それらの進路を目指す学生が多く集まっていることが窺える。したがって、これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言える。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

項目 4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」（表 3-1）

有効回答数：90 名分

- ①とても楽しみ：34 名（37.8%）
- ②まあまあ楽しみ：50 名（55.6%）
- ③あまり楽しみではない：4 名（4.4%）
- ④楽しみではない：2 名（2.2%）

選択肢①と選択肢②の合計は 93.3%であり、大学全体の数値（91.4%）とほぼ同じであった。学科全体の 90%以上が、これからの大学生活を楽しみにしていると回答しており、今後の学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

項目 9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」(表 3-2)

有効回答数：90 名分

- ①ある：9 名 (10.0%)
- ②まあまあある：40 名 (44.4%)
- ③あまりない：36 名 (40.0%)
- ④ない：5 名 (5.6%)

選択肢①と選択肢②の合計は 54.4%である。大学全体の数値 (57.4%) よりも低く、学びの目標が比較的明確な学科であるにもかかわらず、約半数の学生が今後の大学生活へのイメージを持っていないことを示している。この項目で問うているのは学修行動のみではないが、今後の指導に留意する必要があるかもしれない。

項目 22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」(表 3-3)

有効回答数：90 名分

- ①とてもそう思う：33 名 (36.7%)
- ②どちらかといえばそう思う：50 名 (55.6%)
- ③あまりそう思わない：6 名 (6.7%)
- ④まったくそう思わない：1 名 (1.1%)

選択肢①と選択肢②の合計は 92.1%であり、大学全体の数値 (92.7%) とほぼ同じであった。80%以上の学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

評価

学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。ただし、今後の学生生活へのイメージ形成の低さについては、指導に留意する必要がある。

総合評価

以上の分析から、教育学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

2-2. 経済学部

2-2-1. 経済学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】英語：18.8 ($SD=6.43$)，数学：23.7 ($SD=4.06$)，総合 42.5 ($SD=9.48$)

経済学科の基礎学力確認テストの受験者数は 79 名であった（昨年度比+4 名）。数学と総合成績は大学平均を上回ったが、英語は大学平均よりもわずかに低くなった。総合成績の平均は 42.5 ($SD=9.48$) で、大学平均（41.8 点）よりも 0.7 点高くなった。昨年度比では+0.3 点であった。標準偏差が英語、数学、総合成績のいずれも昨年度よりやや大きくなっており、これは受験者の学力の幅がやや広がったことを意味している。昨年度と比較して、ほぼ同等の学力を備えていると言える。学科間の比較では大学全体の中で中位に位置すると言える。

入試区分別では、共通テスト利用選抜と一般選抜で入学した受験者の成績が高く、いずれの区分においても学内偏差値が 56 以上となった。これらの区分の受験者の比率は学科の 41.8%である。一方、学内偏差値が 45 に届かない入試区分もあり、この区分の受験者は学科の 27.8%であった。

総合成績において、大学平均以上または大学平均並みの受験者は学科の 73.4%を占め、昨年度比では 4.1 ポイント上がった。大学平均-1 標準偏差以下（受験者全体の下位 15.93%）に相当する受験者の比率は 17.7%で、昨年度よりも 3.0 ポイント上がった。上位層・下位層ともに増加していることは、昨年度に比べて標準偏差が大きくなっていることから明らかである。

評価

大学での学修に必要な基礎学力に関しては、新入生の約 18%に学力的な問題が示唆されるが、大半の学生は十分な基礎学力を備えていると言える。したがって、基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

項目 2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」（表 2-1）

有効回答数：79 名分（無効 1 名）

- ①とても持っている：29 名（36.7%）
- ②まあまあ持っている：46 名（58.2%）
- ③あまり持っていない：4 名（5.1%）
- ④持っていない：0 名（0.0%）

選択肢①と選択肢②の合計は 97.9%で、大学全体の数値（95.9%）とほぼ同じであった。学修意欲があると回答した学生が 95%を超えており、学修意欲のある学生が入学したと言える。

項目 23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致し

ていますか」(表 2-2)

有効回答数：79 名分（無効 1 名）

- ①一致している：45 名（57.0%）
- ②一致していないが、興味関心に近い分野：17 名（21.5%）
- ③興味関心とは異なる分野：3 名（3.8%）
- ④まだ自分の興味関心がわからない：13 名（16.4%）
- ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：1 名（1.3%）
- ⑥その他：0 名（0.0%）

選択肢①と選択肢②の合計は 78.5%であり、大学全体の数値（90.1%）よりも低く、全学科中で最も低い数値となった。これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言えるが、選択肢④と選択肢⑤の合計が全学科の中で最も高い（17.7%）など、今後の学修について注意が必要であるかもしれない。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

項目 4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」(表 3-1)

有効回答数：79 名分（無効 1 名）

- ①とても楽しみ：25 名（31.6%）
- ②まあまあ楽しみ：45 名（57.0%）
- ③あまり楽しみではない：9 名（11.4%）
- ④楽しみではない：0 名（0.0%）

選択肢①と選択肢②の合計は 88.6%であり、大学全体の数値（91.4%）よりやや低くなった。80%以上が、これからの大学生活を楽しみにしていると回答しており、今後の学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

項目 9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」(表 3-2)

有効回答数：79 名分（無効 1 名）

- ①ある：7 名（8.9%）
- ②まあまあある：40 名（50.6%）
- ③あまりない：29 名（36.7%）
- ④ない：3 名（3.8%）

選択肢①と選択肢②の合計は 59.5%で、大学全体の数値（57.4%）よりも高くなった。この項目で問うているのは学修行動のみではないが、約 6 割の学生は大学生活に一定のイメージを持って入学してきている。残る 4 割の学生の今後の指導に留意する必要があるかもしれない。

項目 22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」(表 3-3)

有効回答数：79名分（無効1名）

- ①とてもそう思う：27名（34.2%）
- ②どちらかといえばそう思う：42名（53.2%）
- ③あまりそう思わない：9名（11.4%）
- ④まったくそう思わない：1名（1.3%）

選択肢①と選択肢②の合計は87.3%であった。大学全体の数値（92.7%）より低くなったが、80%以上の学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

評価

学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。ただし、今後の学生生活へのイメージ形成の低さについては、指導に留意する必要がある。

総合評価

以上の分析から、経済学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

2-2-2. 経営学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】英語：15.9（ $SD = 5.45$ ）、数学：21.5（ $SD = 3.90$ ）、総合37.3（ $SD = 7.89$ ）

経営学科の基礎学力確認テストの受験者数は77名であった（昨年度比+5名）。英語、数学、総合成績のいずれも大学平均よりも低くなった。総合成績の平均は37.3点（ $SD = 7.89$ ）で、大学平均（41.8点）を4.5点下回った。昨年度比でも-1.5点であった。昨年度と比較してほぼ同等の学力を備えているが、学科間の比較では大学全体の中で下位に位置すると言える。

入試区分別では、共通テスト利用選抜で入学した受験者の成績が高く、学内偏差値は55.9であった。この区分の入学者の比率は2.60%である。一方、学内偏差値が45に届かない入試区分の受験者は学科の49.4%で、およそ半数を占める。

総合成績において、大学平均以上または大学平均並みの受験者は学科の51.9%を占め、昨年度比では0.9ポイント下がった。大学平均-1標準偏差以下（入学者全体の低位15.93%）に相当する受験者の比率は29.9%で、昨年度よりも9.8ポイント上がった。

受験者の平均点は、共通テスト利用選抜と一般選抜で入学した受験者を除き、いずれも大学平均に届かなかった。特に学科の49.4%を占めるエントリー選抜（一般・スポーツ）と附属高校選抜（計38

名)の平均点は大学内の偏差値換算ですべて45未満となっており、基礎学力に懸念がある。

評価

大学での学修に必要な基礎学力に関しては、学科の約半数は十分な基礎学力を備えていると言えるが、一部に学力的な問題が示唆される。基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断するが、一部の学生については入学後の学修状況についての注視が必要であるかもしれない。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

項目2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」(表2-1)

有効回答数：77名分

- ①とても持っている：22名(28.6%)
- ②まあまあ持っている：48名(62.3%)
- ③あまり持っていない：6名(7.8%)
- ④持っていない：1名(1.3%)

選択肢①と選択肢②の合計は90.9%であった。大学全体の数値(95.9%)よりも低くなったが、学修意欲があると回答した学生は90%を超えており、学修意欲のある学生が入学したと言える。

項目23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」(表2-2)

有効回答数：76名分(無効1名)

- ①一致している：47名(61.8%)
- ②一致していないが、興味関心に近い分野：15名(19.7%)
- ③興味関心とは異なる分野：1名(1.3%)
- ④まだ自分の興味関心がわからない：12名(15.8%)
- ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：1名(1.3%)
- ⑥その他：0名(0.0%)

選択肢①と選択肢②の合計は81.6%であった。大学全体の数値(90.1%)よりも低いですが、80%を超える学生が興味を持つ分野であると回答しており、これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言える。ただし、選択肢④と選択肢⑤の合計が全学科の中で最も高く(17.7%)、今後の学修について注意が必要であるかもしれない。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

項目4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」(表3-1)

有効回答数：77名分

- ①とても楽しみ：24名（31.2%）
- ②まあまあ楽しみ：46名（59.7%）
- ③あまり楽しみではない：6名（7.8%）
- ④楽しみではない：1名（1.1%）

選択肢①と選択肢②の合計は90.9%であり、大学全体の数値（91.4%）とほぼ同じであった。今後の学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

項目9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」（表3-2）

有効回答数：77名分

- ①ある：11名（14.3%）
- ②まあまあある：31名（40.3%）
- ③あまりない：31名（40.3%）
- ④ない：4名（5.2%）

選択肢①と選択肢②の合計は54.5%で、大学全体の数値（57.4%）よりも低くなった。約半数の学生が今後の大学生活へのイメージを持っていないことを示している。この項目で問うているのは学修行動のみではないが、今後の指導に留意する必要があるかもしれない。

項目22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」（表3-3）

有効回答数：76名分（無効1名）

- ①とてもそう思う：27名（35.5%）
- ②どちらかといえばそう思う：42名（56.6%）
- ③あまりそう思わない：5名（6.6%）
- ④まったくそう思わない：1名（1.3%）

選択肢①と選択肢②の合計は92.1%で、大学全体の数値（92.7%）とほぼ同じであった。80%以上の学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

評価

学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。ただし、今後の学生生活へのイメージ形成の低さについては、指導に留意する必要がある。

総合評価

以上の分析から、経営学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができると判断する。

2-3. 経済情報学部経済情報学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】英語：17.7 ($SD = 5.78$)，数学：22.2 ($SD = 5.18$)，総合 39.8 ($SD = 9.74$)

経済情報学科の基礎学力確認テストの受験者数は 79 名（昨年度比+3 名）であった。いずれも大学平均を下回ったが、数学は大学平均とほぼ同等（-0.6 点）であった。総合成績の平均は 39.8 点 ($SD = 9.67$) で、大学平均（41.8 点）を 2.0 点下回った。昨年度比では+0.6 点で、ほぼ同等の学力を備えているが、学科間の比較では大学全体の中で下位に位置すると言える。数学と総合成績の標準偏差が昨年度よりもやや大きくなっており、これは受験者の学力の幅がやや広がったことを意味している。

入試区別では、共通テスト利用選抜と一般選抜で入学した受験者の成績が高く、いずれの区分においても学内偏差値が 55 以上となった。これらの区分の入学者の比率は 30.4%である。また、大学の全学科の中で、唯一共通テスト利用選抜の入学者の成績よりも一般選抜の入学者の成績が高い学科である。一方、学内偏差値が 45 に届かない入試区分もあり、この区分の受験者は学科の 32.9%と、やや高い比率を示している。

総合成績において、大学平均以上または大学平均並みの受験者は学科の 67.1%を占め、昨年度比では 11.8 ポイント上がった。大学平均-1 標準偏差以下（入学者全体の 15.93%）に相当する学生の比率は 25.3%で、昨年度よりも 4.2 ポイント上がった。一方、学科の 21.6%を占めるスポーツエントリー選抜と公募制推薦（専願制）の入学者（17 名）の成績は、学内偏差値が 40 以下となっており、この区分の入学者の学力には懸念がある。また、数学と総合成績の標準偏差がやや拡大しており、上位層と下位層の間で、特に数学の学力差がやや拡大していることが窺える。

評価

大学での学修に必要な基礎学力に関しては、学科の約半数は十分な基礎学力を備えていると言えるが、一部に学力的な問題が示唆される。基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断するが、一部の学生については入学後の学修状況についての注視が必要であるかもしれない。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

項目 2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」（表 2-1）

有効回答数：79 名分

- ①とても持っている：28 名（35.4%）
- ②まあまあ持っている：49 名（62.0%）
- ③あまり持っていない：2 名（2.5%）
- ④持っていない：0 名（0.0%）

選択肢①と選択肢②の合計は 97.5%で、大学全体の数値 (95.9%) とほぼ同じであった。学修意欲があると回答した学生が 95%を超えており、学修意欲のある学生が入学したと言える。

項目 23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」(表 2-2)

有効回答数：79 名分

- ①一致している：38 名 (48.1%)
- ②一致していないが、興味関心に近い分野：27 名 (34.2%)
- ③興味関心とは異なる分野：4 名 (5.1%)
- ④まだ自分の興味関心がわからない：7 名 (8.9%)
- ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：3 名 (3.8%)
- ⑥その他：0 名 (0.0%)

選択肢①と選択肢②の合計は 82.3%であった。大学全体の数値 (90.1%) よりも低くなったが、80%を超える学生が興味を持つ分野であると回答しており、これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言える。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

項目 4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」(表 3-1)

有効回答数：79 名分

- ①とても楽しみ：22 名 (27.8%)
- ②まあまあ楽しみ：50 名 (63.3%)
- ③あまり楽しみではない：7 名 (8.9%)
- ④楽しみではない：0 名 (0.0%)

選択肢①と選択肢②の合計は 91.1%であり、大学全体の数値 (91.4%) とほぼ同じであった。80%以上が、これからの大学生活を楽しみにしていると回答しており、今後の学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

項目 9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」(表 3-2)

有効回答数：78 名分 (無効 1 名)

- ①ある：14 名 (17.9%)
- ②まあまあある：30 名 (38.5%)
- ③あまりない：31 名 (39.7%)
- ④ない：3 名 (3.8%)

選択肢①と選択肢②の合計は 56.4%で、大学全体の数値 (57.4%) とほぼ同じであった。約半数の学生が今後の大学生活へのイメージを持っていないことを示している。この項目で問うているのは学修

行動のみではないが、今後の指導に留意する必要があるかもしれない。

項目 22 「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」(表 3-3)

有効回答数：79 名分

- ①とてもそう思う：23 名 (29.1%)
- ②どちらかといえばそう思う：46 名 (58.2%)
- ③あまりそう思わない：8 名 (10.1%)
- ④まったくそう思わない：2 名 (2.5%)

選択肢①と選択肢②の合計は 87.3%であった。大学全体の数値 (92.7%) より低くなったが、80%以上の学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

評価

学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。ただし、今後の学生生活へのイメージ形成の低さについては、指導に留意する必要がある。

総合評価

以上の分析から、経済情報学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

2-4. 芸術学部芸術学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】英語：20.2 ($SD = 6.74$)，数学：22.3 ($SD = 4.54$)，総合 42.4 ($SD = 10.28$)

芸術学科の基礎学力確認テストの受験者数は 85 名（昨年度比+9 名）であった。英語は大学平均を上回ったが、数学（-0.5 点）と総合成績（+0.6 点）は大学平均とほぼ同等であった。総合成績の平均は 42.4 点 ($SD = 10.28$) で、大学平均（41.8 点）を 0.6 点上回った。昨年度比では -0.5 点で、ほぼ同等の学力を備えており、学科間の比較では大学全体の中位に位置すると言える。また、総合成績の標準偏差が唯一 10 を超えた学科で、全学科の中で最も学力の幅が広がっている。

入試区分別では、共通テスト利用選抜で入学した受験者の成績が高く、学内偏差値が 55.6 となった。この区分の受験者の比率は学科の 14.1% である。一方、学内偏差値が 45 に届かない入試区分もあり、この区分の受験者は学科の 20.0% である。

総合成績において、大学平均以上または大学平均並みの受験者は学科の 74.1% を占め、昨年度比では 0.4 ポイント上がった。大学平均-1 標準偏差以下（入学者全体の下位 15.93%）に相当する受験者の比率は 21.2% で、昨年度よりも 11.2 ポイント上がった。昨年度は一昨年度との比較で 11.5 ポイント下がっていたので、今年度は一昨年度並みに戻ったといえる。上位層が微増しているのに対して、下位層の比率が拡大しているため、標準偏差からも示されるように学科内の学力の差が拡大していることが窺える。

評価

大学での学修に必要な基礎学力に関しては、大半の学生は十分な基礎学力を備えていると言える。したがって、基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。また、昨年度と比較して、平均点ではあまり差がないが、得点区分の比率は下方に拡大しており、入学者の学力の差がやや開いたと言える。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

項目 2 「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」（表 2-1）

有効回答数：85 名分

- ①とても持っている：40 名（47.1%）
- ②まあまあ持っている：44 名（51.8%）
- ③あまり持っていない：1 名（1.2%）
- ④持っていない：0 名（0.0%）

選択肢①と選択肢②の合計は 98.8% で、大学全体の数値（95.9%）よりも高くなった（上記一覧の数値と一致しないのは、小数第 2 位以下の丸め方によるもの）。学修意欲があると回答した学生が 95% を

超えており、学修意欲のある学生が入学したと言える。

項目 23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」(表 2-2)

有効回答数：85 名分

- ①一致している：68 名 (80.0%)
- ②一致していないが、興味関心に近い分野：13 名 (15.3%)
- ③興味関心とは異なる分野：0 名 (0.0%)
- ④まだ自分の興味関心がわからない：3 名 (3.5%)
- ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：1 名 (1.2%)
- ⑥その他：0 名 (0.0%)

選択肢①と選択肢②の合計は 95.3%で、大学全体の数値 (90.1%) よりも高くなった。芸術学科は、学科の特性からみて学生の志望と入学した学問分野が一致する傾向が高くなると考えられるが、実際に 95%以上が興味を持つ分野であると回答している。これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言える。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

項目 4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」(表 3-1)

有効回答数：85 名分

- ①とても楽しみ：33 名 (38.8%)
- ②まあまあ楽しみ：44 名 (51.8%)
- ③あまり楽しみではない：7 名 (8.2%)
- ④楽しみではない：1 名 (1.2%)

選択肢①と選択肢②の合計は 90.6%であり、大学全体の数値 (91.4%) とほぼ同じであった。80%以上が、これからの大学生活を楽しみにしていると回答しており、今後の学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

項目 9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」(表 3-2)

有効回答数：85 名分

- ①ある：4 名 (4.7%)
- ②まあまあある：34 名 (40.0%)
- ③あまりない：40 名 (47.1%)
- ④ない：7 名 (8.2%)

選択肢①と選択肢②の合計は 44.4%で、大学全体の数値 (57.4%) よりも低く、全学科中で最も低い数値となった。半数を超えるの学生が今後の大学生活へのイメージを持っていないことを示している。

この項目で問うているのは学修行動のみではないが、今後の指導に留意する必要があるかもしれない。

項目 22 「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったですか」(表 3-3)

有効回答数：85 名分

- ①とてもそう思う：30 名 (35.3%)
- ②どちらかといえばそう思う：54 名 (63.5%)
- ③あまりそう思わない：1 名 (1.2%)
- ④まったくそう思わない：0 名 (0.0%)

選択肢①と選択肢②の合計は 98.8%で、大学全体の数値 (92.7%) よりも高く、全学科の中で最も高い数値となった。ほぼすべて学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

評価

学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。ただし、今後の学生生活へのイメージ形成の低さについては、指導に留意する必要がある。

総合評価

以上の分析から、芸術学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

2-5. スポーツ科学部スポーツ科学科

スポーツ科学部スポーツ科学科は、2021年度に人間健康学部がスポーツ科学部と栄養学部の2学部に分かれて発足した学科である。そこで、以下の前年度との比較においては人間健康学部スポーツ健康学科を比較対象とする。

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】英語：15.8 ($SD=6.00$)、数学：21.1 ($SD=4.55$)、総合 36.8 ($SD=9.10$)

スポーツ科学科の基礎学力確認テストの受験者数は171名（昨年度比+13名）であった。英語、数学、総合成績のいずれも大学平均よりも低くなった。総合成績の平均は36.8 ($SD=9.10$)で、大学平均（41.8点）を5.0点下回った。昨年度比では+0.1点であった。また、英語、数学、総合成績のすべてで標準偏差が昨年度よりもやや大きくなっている。昨年度と比較するとほぼ同等の学力を備えているが、学科間の比較では大学全体の中で下位に位置すると言える。

入試区分別では、共通テスト利用選抜で入学した受験者の成績が高く、学内偏差値が63.4となったが、この区分の入学者は5名（2.9%）である。一方、学内偏差値が45に届かない入試区分もあり、この区分の受験者は学科の72.5%を占める。スポーツ科学科は、学科の特性上スポーツエントリー選抜に入学者が集中しており、この区分の受験者は学科の67.8%を占めるが、平均点は34.9点で学科の平均よりも1.9点低い。

総合成績において、大学平均以上または大学平均並みの受験者は学科の49.1%を占め、昨年度比で1.0ポイント上がった。大学平均-1標準偏差以下（入学者全体の低位15.93%）に相当する受験者の比率は35.1%で、昨年度よりもポイント上がった。上位層にほぼ変化がなく、下位層の比率が拡大しているため、標準偏差からも示されるように学科内の学力の差が拡大していることが窺える。

評価

大学での学修に必要な基礎学力に関しては、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると考えられるが、学科の約35%に学力的な問題が示唆され、特に成績の低い一部の学生については入学後の学修状況についての注視が必要であるかもしれない。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

項目2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」（表2-1）

有効回答数：171名分

- ①とても持っている：71名（41.5%）
- ②まあまあ持っている：89名（52.0%）
- ③あまり持っていない：6名（5.5%）
- ④持っていない：5名（2.9%）

選択肢①と選択肢②の合計は 93.6%で、大学全体の数値 (95.9%) よりもやや低くなった (上記一覧の数値と一致しないのは、小数第 2 位以下の丸め方によるもの)。学修意欲があると回答した学生が 90%を超えており、学修意欲のある学生が入学したと言える。

項目 23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」(表 2-2)

有効回答数：171 名分

- ①一致している：144 名 (84.2%)
- ②一致していないが、興味関心に近い分野：18 名 (10.5%)
- ③興味関心とは異なる分野：0 名 (0.0%)
- ④まだ自分の興味関心がわからない：5 名 (2.9%)
- ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：3 名 (1.8%)
- ⑥その他：1 名 (0.6%)

選択肢①と選択肢②の合計は 94.7%で、大学全体の数値 (90.1%) よりも高くなった。スポーツ科学科は、学科の特性からみて学生の志望と入学した学科の学問分野が一致する傾向が高くなると考えられるが、実際に 90%以上が興味を持つ分野であると回答している。これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言える。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

項目 4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」(表 3-1)

有効回答数：171 名分

- ①とても楽しみ：66 名 (38.6%)
- ②まあまあ楽しみ：92 名 (53.8%)
- ③あまり楽しみではない：12 名 (7.0%)
- ④楽しみではない：1 名 (0.6%)

選択肢①と選択肢②の合計は 92.4%であり、大学全体の数値 (91.4%) とほぼ同じであった。80%以上が、これからの大学生活を楽しみにしていると回答しており、今後の学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

項目 9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」(表 3-2)

有効回答数：171 名分

- ①ある：40 名 (23.4%)
- ②まあまあある：79 名 (46.2%)
- ③あまりない：43 名 (25.1%)
- ④ない：9 名 (5.3%)

選択肢①と選択肢②の合計は 69.6%で、大学全体の数値 (57.4%) よりも高く、全学科中でも最も高い数値となった。約 7 割の学生が今後の大学生活へのイメージを持てていることを示しており、他の学科とは対照的である。スポーツ科学科は、学科の特性として運動部での活動を入学時から視野に入れている学生が多く、それがイメージ形成の高さに関係しているかもしれない。

項目 22 「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったですか」(表 3-3)

有効回答数：171 名分

- ①とてもそう思う：81 名 (47.4%)
- ②どちらかといえばそう思う：79 名 (46.2%)
- ③あまりそう思わない：11 名 (6.4%)
- ④まったくそう思わない：0 名 (0.0%)

選択肢①と選択肢②の合計は 93.6%で、大学全体の数値 (92.7%) とほぼ同じであった。80%以上の学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

評価

スポーツ科学科は、アドミッションポリシーの適用において、学科特性として入学後の活動意欲に重きを置く学科である。学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。したがって、学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

総合評価

以上の分析から、スポーツ科学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

2-6. 栄養学部栄養学科

栄養学部栄養学科は、2021年度に人間健康学部がスポーツ科学部と栄養学部の2学部に分かれて発足した学科である。そこで、以下の前年度との比較においては人間健康学部健康栄養学科を比較対象とする。

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】22.7 ($SD = 5.68$), 数学: 24.9 ($SD = 2.84$), 総合 47.6 ($SD = 7.32$)

栄養学科の基礎学力確認テストの受験者数 83 名 (昨年度比+9 名) であった。英語, 数学, 総合成績のいずれも大学平均よりも高くなった。総合成績の平均は 47.6 点 ($SD = 7.32$) で, 大学平均 (41.8 点) を 5.6 点上回った。昨年度比では+1.3 点であった。また, 英語, 数学, 総合成績のすべてで標準偏差が昨年度よりも小さくなっている。昨年度と比較するとほぼ同等の学力を備えており, 学科間の比較では大学全体の中で上位に位置すると言える。

入試区分別では, 共通テスト利用選抜, 一般選抜, 公募制推薦 (併願制) で入学した受験者の成績が高く, 学内偏差値が 57 を超えている。学内偏差値が 45 未満の入試区分はない。

総合成績において, 大学平均以上または大学平均並みの受験者は学科の 91.6% を占め, 昨年度比で 7.8 ポイント上がった。大学平均-1 標準偏差以下 (入学者全体の下位 15.93%) に相当する受験者の比率は 3.6% で, 昨年度よりも 4.5 ポイント下がった。標準偏差が小さくなり, 成績が上方へシフトしていることから, 学科全体の学力が上がったことが窺える。

評価

基本的な学力は学内でも上位に位置しており, 大学での学修に必要な基礎学力は備えていると言える。したがって, 基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

項目 2 「大学/短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」 (表 2-1)

有効回答数: 83 名分

- ①とても持っている: 55 名 (66.3%)
- ②まあまあ持っている: 28 名 (33.7%)
- ③あまり持っていない: 0 名 (0.0%)
- ④持っていない: 0 名 (0.0%)

選択肢①と選択肢②の合計が 100% に達し, 大学全体の数値 (95.9%) よりも高く, 全学科の中で最も高い数値となった。栄養学科は, 卒業時に国家試験の受験を目標としており, 学修意欲の高さは重要な評価ポイントである。全員が学修意欲があると回答しており, 学修意欲のある学生が入学したと言

える。

項目 23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」(表 2-2)

有効回答数：83 名分

- ①一致している：76 名 (91.6%)
- ②一致していないが、興味関心に近い分野：6 名 (7.2%)
- ③興味関心とは異なる分野：0 名 (0.0%)
- ④まだ自分の興味関心がわからない：1 名 (1.2%)
- ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：0 名 (0.0%)
- ⑥その他：0 名 (0.0%)

選択肢①と選択肢②の合計は 98.8%で、大学全体の数値 (90.1%) よりも高く、全学科の中で最も高い数値となった。栄養学科は、学科の特性からみて学生の志望と入学した学科の学問分野が一致する傾向が高くなると考えられるが、ほぼ全員が興味を持つ分野であると回答している。これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言える。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

項目 4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」(表 3-1)

有効回答数：83 名分

- ①とても楽しみ：25 名 (30.1%)
- ②まあまあ楽しみ：55 名 (66.3%)
- ③あまり楽しみではない：3 名 (3.6%)
- ④楽しみではない：0 名 (0.0%)

選択肢①と選択肢②の合計は 96.4%であり、大学全体の数値 (91.4%) よりも高く、全学科の中で最も高い数値となった。80%以上が、これからの大学生活を楽しみにしていると回答しており、今後の学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

項目 9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」(表 3-2)

有効回答数：82 名分 (無効 1 名)

- ①ある：8 名 (9.8%)
- ②まあまあある：47 名 (57.3%)
- ③あまりない：26 名 (31.7%)
- ④ない：1 名 (1.2%)

選択肢①と選択肢②の合計は 67.1%で、大学全体の数値 (57.4%) よりも高くなった。約 7 割の学生が今後の大学生活へのイメージを持てていることを示しており、他の学科とは対照的である。栄養学

科は卒業後の進路が明確な学科であり、それがイメージ形成の高さに関係しているかもしれない。

項目 22 「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったですか」(表 3-3)

有効回答数：83 名分

- ①とてもそう思う：34 名 (41.0%)
- ②どちらかといえばそう思う：45 名 (54.2%)
- ③あまりそう思わない：3 名 (3.6%)
- ④まったくそう思わない：1 名 (1.2%)

選択肢①と選択肢②の合計は 95.2%で、大学全体の数値 (92.7%) よりもやや高くなった。80%以上の学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

評価

栄養学科は、卒業時に国家試験の受験を目標としており、学修意欲の高さは重要な評価ポイントである。学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。したがって、学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

総合評価

以上の分析から、栄養学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

3. 大学のアドミッションポリシーに関する総合評価

以上の各学科の評価からは、アドミッションポリシーにかなわない学生が入学しているとは言えない。したがって、現在のアドミッションポリシーには不適切な点はないと判断される。ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない学生募集はおこなっていないと言える。

一方で、一部の学科における基礎学力の担保について、課題が残る。また、学生生活のイメージ形成の低さについても、新型コロナウイルス感染症が影響している可能性が予想されるものの、実際に入学者全体の約4割がイメージを持っていないことは事実であり、今後の指導に留意する必要がある。

II. カリキュラムポリシーの評価

1. 評価資料

カリキュラムポリシーの評価においては、各学科における教養・専門・卒業研究／卒業論文等の合格率と履修放棄率を用いた。

2020年度に開講されたすべての科目から卒業単位に算入されない科目を除き、残る科目を教養科目と外国語科目の必修科目，専門科目の必修科目と選択科目に分けた。これらの科目について，成績評価の内訳を整理し，成績評価の比率（秀・優・良・可）とこれらを合わせた合格率（単位修得率）を算出した。さらにこれらの科目の「放棄」の数に基づいて，履修取消者を除き，最終的な評価まで受講した履修登録者に占める履修放棄率を算出した。履修取消はGPAの算出に影響しないこと，および期首に誤って履修単位数の上限を超えて登録したために取り消した学生が含まれていることから，分析においては「放棄」のみを対象とした。

各学科の分析において用いている科目のカテゴリー名は，すべて各学科の教育課程表に準じて記載した。カリキュラムの移行がある学部・学科については，新旧それぞれの科目に分けて計算した。また，2020年度からクォーター制が導入され，2年生以上で半期科目となっている科目の一部が，1年生ではクォーター科目となっている。これらの科目については，2019年度までの入学生が同時履修している（主に再履修または文学科の他専攻履修）場合，成績評価を合算して算出することができないため，別科目として算出した。

2. 各学科の評価

2-1. 文学部

2-1-1. 文学科

①評価の対象とする科目

教養科目から必修 15 科目（初年次教育 4 科目，キャリア教育 5 科目，第一外国語 6 科目），専門科目から，必修の学科共通専門 2 科目，専門科目 157 科目（4 専攻分）を対象とした。専門科目を，さらに各専攻の 1，2 年次の必修または選択必修 35 科目と選択 140 科目に分け，合格率と履修放棄率を算出した。各専攻の 1，2 年次必修・選択必修科目には，2 年次以降に他専攻の学生が履修している科目が含まれており，いずれか 1 専攻の合格率だけを示した数値ではないことに注意されたい。

②合格率と履修放棄率

教養科目の合格率については，初年次教育科目 92.4%，キャリア教育科目 88.5%，第一外国語 89.3% となり，教養必修 15 科目の平均は 89.8% であった。専門科目の合格率については，学科共通専門科目のプレ卒業研究演習が 96.1%，卒業研究が 94.3% であった。各専攻の必修・選択必修科目については，合格率の平均は 88.4% で，35 科目中 6 科目（17.1%）が合格率 100% であった。その他の選択科目では，合格率の平均は 88.8% であった。140 科目中 22 科目（15.7%）が合格率 100% であった。

履修放棄率は，教養科目ではキャリア教育の 2 科目が 10% を超えたが，これらの科目は，欠席過多の受講生を「不可」ではなく「放棄」と扱う科目である。専門科目のうち，各専攻の必修・選択必修科目のカテゴリーに，履修放棄率が 10% を超える科目が 8 科目あり，最も高い値を示した科目では 22.9% に達した。ただし，この科目は 1 年生に対してクォーター化されたため，再履修の 2 年生以上のみを別計算とした科目である。選択科目については，一部に 15% 以上の高い履修放棄率を示した科目があるが，これらの科目には履修登録が 15 名未満のものが多い。20 名を超える履修者がいる科目で履修放棄率が 15% を超えた科目は 4 科目であった。

評価内訳については，いずれのカテゴリーにおいても受講生の過半数が「可」であったり，逆に高い評価ばかりであったりなどの成績評価の偏りは見られなかった。初年次教育科目では，「秀」と「優」の合計が 68.9% に達しているが，学修の動機づけの観点からやむを得ない面もある。対象としたすべての科目では，「秀」と「優」の合計が 48.2% で，昨年度の数値（48.8%）とほぼ同じであった。

2019 年度とは対象科目の選択方法が異なっているが，同じカテゴリーの合格率や評価割合に，著しい差異は見られなかった。

評価

本学科では，対象とした主要科目の履修につまずきは見られず，学生は順調に学んでいると言える。したがって，評価対象としたカリキュラムに学修計画に齟齬を来す欠点はないと判断する。

2-1-2. 教育学科

①評価の対象とする科目

今年度の分析から、科目選択を他学部と同様の区分に統一した。教養科目のうち必修 6 科目，専門科目のうち必修 14 科目，その他の専門 92 科目，合計 112 科目である。なお，本学科は 2018 年度開設であるため，2020 年度は 1～3 年生が在籍している。したがって，対象となるのは 3 年次開講の科目までである。

②合格率と履修放棄率

合格率については，教養必修科目の平均が 93.6%，専門必修科目の平均が 96.2%，専門選択科目の平均が 92.5%であった。専門必修科目では，14 科目中 6 科目（42.9%）が合格率 100%に達した。専門選択科目では，92 科目中 29 科目（31.5%）が合格率 100%であった。

履修放棄率については，教養必修科目 2.7%，専門必修科目 1.2%と，必修科目はいずれ平均が 3%未満であった。専門選択科目では 3.7%であった。専門選択科目の中に，放棄率が 25.0%や 50.0%などの数値を示した科目があるが，いずれも履修登録者が 4 名しかいない再履修者を対象とした科目である。

評価については，専門選択科目にややどのカテゴリーにも大きな偏りはなく，科目の特性を反映した評価になっており，また，学生の学びを適切に評価していると考えられる。対象としたすべての科目での「秀」と「優」の合計は，55.7%であった。昨年度は 64.2%であったが，対象とする科目や学生数が増えるにつれて，やや下がる傾向にある。

昨年度の評価時点よりも対象科目が増え，さらに対象科目の選択方法も異なっているが，同じカテゴリーの合格率や評価割合に，著しい差異は見られなかった。

評価

本学科では，対象とした主要科目の履修につまずきは見られず，学生は順調に学んでいると言える。まだ完成年度を迎える前であり，学科全体の学修が進んでいる途上であるが，現状の評価からはカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。

2-2. 経営情報学部経営情報学科

①評価の対象とする科目

教養科目から必修7科目，専門科目から96科目を対象とした。専門科目を，さらに必修科目9科目と選択科目87科目に分け，合格率と履修放棄率を算出した。

現在の経営情報学科1学科への改組（2016年度）以前の旧2学科のカリキュラムの科目は，分析対象から除外した。

②合格率と履修放棄率

教養必修科目については，合格率の平均が84.2%であった。専門科目については，必修科目の合格率の平均は88.0%，選択科目の合格率の平均は78.8%であった。いずれのカテゴリーにおいても，昨年度よりやや数値が低くなっている。合格率が100%に達した科目は，教養必修科目にはなく，専門必修科目1科目，専門選択科目2科目の合計3科目（0.03%）であった。他学科よりも，合格率100%に達する科目が少ない。

履修放棄率は，教養必修科目が12.1%，専門必修科目が8.8%，専門選択科目が11.9%であった。教養必修科目の中に履修放棄率が41.7%に達した科目があるが，これは1年次科目の再履修者のみを取り出したものである。専門選択科目では，履修放棄率が20%を超える科目が19科目あり，このうち1科目は63.0%に達している。この科目は集中講義で実施された科目であり，期首に履修登録した後，実際の集中講義が開始される前に履修を取りやめた学生が複数含まれている可能性がある。昨年度も，集中講義科目において50%を超える履修放棄率が見られている。

評価内訳については，専門選択科目の一部に「可」の比率が50%を超えるものが見られた。対象としたすべての科目で，「可」の比率（26.3%）が他の評価よりも高くなっている。「秀」と「優」の合計は37.9%で，昨年度（31.6%）より，やや増加した。

昨年度とは対象科目の選択方法が異なっているが，同じカテゴリーの合格率や評価割合に，著しい差異は見られなかった。

評価

本学科では，対象とした主要科目の履修に大きな齟齬は認められず，学生は概ね順調に学んでいると認められる。ただ，履修放棄率の高い科目がいくつかあるので，原因の分析をおこなうとともに，講義内容や到達目標の見直しを検討したい。

2-3. 経済学部経済学科／経営学科

①評価の対象とする科目

経済学科と経営学科については、対象とする科目の一部が学科合同で実施されていること、2020年度開設で1学年しか在籍しておらず、学科別に分析すると対象となる専門科目が極めて少なくなることを考慮し、2学科を合算して分析した。

教養科目から必修5科目、専門科目から23科目を対象とした。専門科目を、さらに必修科目4科目（経済1科目、経営3科目）と選択科目19科目（経済8科目、経営9科目、合同実施2科目）に分け、合格率と履修放棄率を算出した。

上述の通り、在籍しているのが1年生のみであるため、分析対象も1年次科目のみとした。

②合格率と履修放棄率

教養必修科目については、合格率の平均が96.4%であった。専門科目については、必修科目の合格率の平均は86.7%、選択科目の合格率の平均は86.9%であった。合格率が100%に達した科目は、教養必修科目にはなく、専門必修科目と専門選択科目にそれぞれ1科目の合計2科目（0.07%）であった。他学科よりも、合格率100%に達する科目が少ない。

履修放棄率は、教養必修科目が1.3%、専門必修科目が2.9%、専門選択科目が6.0%であった。履修放棄率が20%を超える科目はなかった。

評価内訳については、1年次の修学基礎科目が複数含まれることもあり、「秀」の比率が他の評価よりもやや高い（26.0%）が、全体としてはほぼ均等である。「秀」と「優」の合計は48.9%であった。

同じカテゴリーの合格率や評価割合に、著しい差異は見られなかった。

評価

本学科では、対象とした主要科目の履修に大きな齟齬は認められず、学生は概ね順調に学修を開始できたと認められる。

2-4. 経済情報学部経済情報学科

①評価の対象とする科目

教養科目から必修5科目、専門科目から19科目を対象とした。専門科目を、さらに必修科目3科目と選択科目16科目に分け、合格率と履修放棄率を算出した。

経済情報学科は2020年度開設で、1学年しか在籍していないため、対象とする科目も1年次科目のみである。

②合格率と履修放棄率

教養必修科目については、合格率の平均が98.5%であった。専門科目については、必修科目の合格率の平均は99.6%、選択科目の合格率の平均は97.0%であった。合格率が100%に達した科目は、教養必修科目に3科目、専門必修科目に2科目と専門選択科目に6科目で、合計11科目(45.8%)であった。他学科よりも、合格率100%に達する科目が多く、100%に達しない科目もすべて合格率は90%以上であった。

履修放棄率は、教養必修科目が1.3%、専門必修科目が0.4%、専門選択科目が1.1%であった。履修放棄率が20%を超える科目はなく、10%を超えた科目も1科目のみであった。履修放棄率が0.0%の科目が16科目(66.7%)であった。

評価内訳については、「秀」の比率が他の評価よりも高く、42.5%に達した。「秀」と「優」の合計は68.1%であり、高い評価に偏る傾向がある。

評価

本学科では、対象とした主要科目の履修に大きな齟齬は認められず、学生は概ね順調に学修を開始できたと認められる。

2-5. 芸術学部芸術学科

①評価の対象とする科目

教養必修科目 10 科目，専門科目から 110 科目を対象とした。専門科目を，さらに必修 5 科目と選択 105 科目（5 分野）に分け，合格率と履修放棄率を算出した。

現在の芸術学科 1 学科への改組（2016 年度）以前の旧 2 学科のカリキュラムは，対象から除外した。

②合格率と履修放棄率

合格率の平均は，教養必修科目 94.8%，専門必修科目 99.3%，専門選択科目 92.6%であった。合格率 100%に達した科目は，教養必修科目に 1 科目，専門必修科目に 3 科目，専門選択科目に 37 科目で，合計 41 科目（34.2%）であった。1 年生しか在籍していない学科を除く他学科に比べ，合格率が 100%に達する科目がやや多い。

履修放棄率は，教養必修科目 1.3%，専門必修科目 0.0%，専門選択科目 2.7%であった。履修放棄率が 20%を超えた科目が専門選択科目に 3 科目あり，履修登録者 20 名未満の科目が 2 科目，29 名の科目が 1 科目であった。

評価内訳については，いずれのカテゴリーにおいても受講生の過半数が「可」であるような科目は見られなかった一方で，「優」が多くなる傾向（36.9%）が見られた。対象としたすべての科目で「秀」と「優」の合計が 49.8%であった。

昨年度とは対象科目の選択方法が異なっているが，同じカテゴリーの合格率や評価割合に，著しい差異は見られなかった。

評価

芸術学科においては，対象とした科目の履修においてつまずきや著しい理解不足はなく，学生たちは堅調に学んでいると言える。したがって，評価対象としたカリキュラムに学修計画上の困難・不備はないと判断する。

2-6. 人間健康学部

2-6-1. スポーツ健康学科

①評価の対象とする科目

スポーツ健康学科では、2019年度にカリキュラム改訂を実施したため、2018年度以前と2019年度以降で科目を照合し、対応する科目は同一科目として扱った。ただし、その中で必修／選択の区分が変わった科目については、対応する科目であっても別科目とした。その結果、教養必修11科目、専門必修16科目、専門選択76科目の合計103科目を対象とした。なお、新課程表においては3年次以降の科目は開講されていない。

②合格率と履修放棄率

合格率の平均は、教養必修科目で98.1%、専門必修科目で94.1%、専門選択科目で88.5%であった。合格率が100%となった科目は、教養必修科目4科目、専門必修科目1科目、専門選択科目17科目で、合計22科目(21.4%)であった。一部に合格率が0.0%の科目があるが、これは履修登録者全員が保留となっている実技科目で、内容は水泳、マリンスポーツ、スノースポーツと、いずれも学外での実施が必要な科目である。これらの実技科目は、2020年度中は新型コロナウイルス感染症拡大の問題から実施が困難であった。

履修放棄率は、教養必修科目で0.6%、専門必修科目で1.8%、専門選択科目で3.3%であった。履修放棄率が20%を超える科目は専門選択科目の1科目のみ(実技科目)であった。履修放棄率が0.0%の科目は49科目(47.9%)であった。

評価内訳については、英語2科目の合計で「可」が40.8%となった。昨年度(55.3%)に比べて数値が下がっているが、やや低い評価に集まっている。「良」または「可」を合計すると、65.4%であった(昨年度は76.5%)。受講生の過半数が「可」であるような科目が見られなかった。対象としたすべての科目では、「秀」と「優」の合計が48.3%であった。

評価

スポーツ健康学科では、成績評価を正規分布するよう心がけている。実際に、対象とした科目の評価割合は、「秀」18.9%、「優」29.5%、「良」25.5%、「可」19.1%となっている。対象とした科目の履修につまずきは見られず、学生は順調に学んでいると言える。したがって、評価対象としたカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。

2-6-2. 健康栄養学科

①評価の対象とする科目

教養必修科目 9 科目，専門科目から 76 科目を対象とした。専門科目を，さらに必修 41 科目と選択 35 科目に分け，合格率と履修放棄率を算出した。

②合格率と履修放棄率

健康栄養学科では，国家試験の受験資格を得るためには単位の修得が不可欠な科目が多く配置されていることから，対象とした科目については合格率の高さと履修放棄率の低さが顕著である。

合格率の平均は，教養必修科目で 98.5%，専門必修科目で 96.6%，専門選択科目で 95.9%であった。合格率が 100%となった科目は，教養必修科目 2 科目，専門必修科目 9 科目，専門選択科目 12 科目で，合計 23 科目（27.1%）であった。対象とした科目のうち，合格率が 90%未満の科目は 5 科目である。

履修放棄率は，教養必修科目で 1.2%，専門必修科目で 1.6%，専門選択科目で 1.8%となり，いずれも 2%未満であった。履修放棄率が 20%を超える科目は，専門選択科目の 1 科目のみ（実習科目）であった。この科目を除くすべての科目が履修放棄率 10%未満であり，履修放棄率が 0.0%の科目は 35 科目（41.2%）であった。

評価内訳については，いずれの категорияにおいても受講生の過半数が「可」であったり，逆に高い評価ばかりであったりなどの成績評価の偏りは見られなかった。対象としたすべての科目では，「秀」と「優」の合計が 49.7%であった。また，昨年度と同様に，実験・実習科目の一部に，評価が「良」以下に偏る科目が複数みられる。

昨年度とは対象科目の選択方法が異なっているが，同じcategoryの合格率や評価割合に，著しい差異は見られなかった。

評価

対象とした主要科目の履修につまずきは見られず，学生は順調に学んでいると言える。したがって，評価対象としたカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。しかしながら，実験・実習科目で低い評価に偏る傾向が見られることについては，今後の精査が必要である。

3. 大学のカリキュラムポリシーに関する総合評価

大学においては、カリキュラム（教育課程）は、カリキュラムポリシーに沿って編成されている。このカリキュラム編成に何らかの不備や瑕疵があるならば、学生の学びは順調に進まないことが予測される。また特定の科目に低評価が集中する、あるいは履修放棄率が極端に高くなるなどの結果が見られた場合、段階を踏んで学ぶように設計されたカリキュラムの中に、つまづきを誘発する要素（その段階にそぐわない内容や難易度）があると考えられる。今回の各学科の教育成果の評価においては、このような問題点は見当たらなかった。

したがって、カリキュラムの改訂ならびにカリキュラムポリシーの見直しが必要になるような状況は存在せず、ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない教育課程にはなっていないと言える。ただし、一部の学科に見られた履修放棄率の高さ並びに低い評価への偏りについては、今後の詳細な検討を必要とする。

III. ディプロマポリシーの評価

1. 評価資料

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

各学科の科目から、必修の卒業研究、卒業制作を選び、その合格率、履修放棄率、各成績の内訳を算出した。()内の数字は、2019年度比の数値である。

②卒業率（4年間での学修達成率）

2017年度に入学し、2020年度に4年間で教育課程を修了して卒業した学生の数を、その学年が入学した当初の入学者数に対する割合で示した。この分析においては、3年次の編入生は含めていない。

③就職内定率

各学科の就職希望者に対する内定者数の割合で示した。健康栄養学科においては、「管理栄養士」国家試験の合格率も、合わせて示した。

2. 各学科の評価

2-1. 文学部

2-1-1. 文学科

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

文学科全体で 158 名（昨年度は 131 名）が履修し、合格率は 94.3%（同 96.2%）であった。放棄が 8 名（同 5 名）おり、履修放棄率は 5.1%（同 3.8%）であった。評価割合は、「秀」が 15.3%（同 12.2%）、「優」が 29.1%（同 31.3%）、「良」が 22.1%（同 32.1%）、「可」が 20.3%（同 20.6%）であった。昨年度と比較して、評価割合に大きな差異は認められなかった。「秀」または「優」の比率は、履修者全体の 44.3%（同 63.4%）であった。

②卒業率（4年間の学修達成率）

2017 年度 4 月に入学した学生は 167 名であった。このうち 88.0%に相当する 147 名が、4 年間で教育課程を修了し 2020 年度 3 月に卒業した（昨年度 86.7%）。

③就職内定率

就職希望者 132 名に対して、内定者は 131 名（内定率 99.2%）であった。

評価

以上①から③までの評価に基づき、2020 年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

2-1-2. 教育学科

完成年度を迎えていないため、2020 年度は卒業生を輩出していない。

2-2. 経営情報学部経営情報学科

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

経営情報学科で卒業研究に相当する科目は、「演習Ⅰ」（前期）と「演習Ⅱ」（後期）の2科目である。「演習Ⅰ」の合格率は97.8%（昨年度99.3%）であった。履修放棄が2名（同0名）おり、履修放棄率は1.1%であった。評価割合は、「秀」12.2%（同17.0%）,「優」40.9%（同34.0%）,「良」26.0%（同30.1%）,「可」18.8%（同18.3%）であった。履修者全体の53.0%（同51.0%）が「秀」または「優」であった。

「演習Ⅱ」の合格率は98.4%（同99.3%）であった。履修放棄が1名（同0名）おり、履修放棄率は0.5%であった。評価割合は、「秀」15.9%（同22.3%）,「優」41.2%（同31.8%）,「良」20.3%（同25.0%）,「可」20.9%（同20.3%）であった。履修者全体の57.1%（同54.1%）が「秀」または「優」であった。

②卒業率（4年間での学修達成率）

2017年度4月に入学した学生は200名であった。このうち85.5%に相当する171名が、4年間で教育課程を修了し2019年度3月に卒業した（昨年度83.4%）。

③就職内定率

就職希望者163名に対して、内定者は162名（内定率99.4%）であった。

評価

以上①から③までの評価に基づき、2020年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

2-3. 経済学部

2-3-1. 経済学科

完成年度を迎えていないため、2020年度は卒業生を輩出していない。

2-3-2. 経営学科

完成年度を迎えていないため、2020年度は卒業生を輩出していない。

2-4. 経済情報学部経済情報学科

完成年度を迎えていないため、2020年度は卒業生を輩出していない。

2-5. 芸術学部芸術学科

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

芸術学科の卒業研究に相当する科目は「卒業制作・研究Ⅱ」である。2020年度の「卒業制作・研究Ⅱ」は、芸術学科全体で53名が履修履修（昨年度53名）し、合格率は100.0%（同100.0%）であった。履修放棄した者は、昨年度と同様にいなかった。評価割合は、「秀」18.9%（同12.5%）,「優」43.4%（同44.6%）,「良」24.5%（同32.1%）,「可」13.2%（同20.6%）であった。昨年度比で「秀」と「優」の比率がやや増加し、「良」と「可」の比率が減少した。履修者全体の62.3%（同57.1%）が「秀」または「優」であった。

②卒業率（4年間での学修達成率）

2017年度4月に入学した学生は59名であった。このうち88.1%に相当する52名が、4年間で教育課程を修了し2019年度3月に卒業した（昨年度92.7%）。

③就職内定率

就職希望者48名の全員が内定を得た（内定率100.0%）。

評価

以上①から③までの評価に基づき、2019年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

2-6. 人間健康学部

2-6-1. スポーツ健康学科

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

スポーツ健康学科の卒業研究に相当する科目は「専門演習Ⅱ」である。2020年度の「専門演習Ⅱ」は、スポーツ健康学科全体で110名が履修（昨年度は111名）し、合格率は100.0%（同100.0%）であった。履修放棄した者はいなかった。評価割合は、「秀」が46.4%（同44.1%）、「優」が30.9%（同34.2%）、「良」が15.5%（同12.6%）、「可」が7.3%（同9.0%）であった。昨年度比で「秀」と「良」の比率が増加し、「優」と「可」が減少した。履修者全体の77.3%が「秀」または「優」であった（昨年度78.3%）。

②卒業率（4年間での学修達成率）

2017年度4月に入学した学生は124名であった。このうち84.7%に相当する105名が、4年間で教育課程を修了し2020年度3月に卒業した（昨年度91.7%）。

③就職内定率

就職希望者104名の全員が内定を得た（内定率100.0%）。

評価

「専門演習Ⅱ」は、退学者以外に放棄した学生はおらず、「秀」が全体の46%を占めた。熱心に卒業研究へ取り組む優秀な学生が多く、順調な学修成果を上げたと判断する。

以上①から③までの評価に基づき、2020年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

2-6-2. 健康栄養学科

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

健康栄養学科の卒業研究相当科目は、「卒業研究Ⅰ」（前期）と「卒業研究Ⅱ」（後期）の2科目である。「卒業研究Ⅰ」の合格率は100.0%（昨年度100.0%）で、昨年度と同じく履修放棄した者はいなかった。評価の割合は、「秀」が34.4%（同32.9%）、「優」が39.1%（同40.8%）、「良」が14.1%（同17.1%）、「可」が12.5%（同9.2%）であった。履修者全体の73.4%が「秀」または「優」であった（同73.7%）。「卒業研究Ⅱ」の合格率は98.5%（同100.0%）で、履修放棄した者が1名（昨年度0名）いた。履修放棄率に直すと1.5%である。評価割合は、「秀」が26.2%（同48.0%）、「優」が53.1%（同37.3%）、「良」が15.6%（同8.0%）、「可」が4.7%（同6.7%）であった。履修者全体の78.5%（同85.3%）が「秀」または「優」であった。

2科目平均の合格率は99.2%であった。「秀」と「優」の比率は、2科目全体で76.0%であった。

②卒業率（4年間での学修達成率）

2017年度4月に入学した学生は67名であった。このうち88.1%に相当する59名が、4年間で教育課程を修了し2020年度3月に卒業した（昨年度98.7%）。

③就職内定率および管理栄養士国家試験合格率

就職希望者63名の全員が内定を得た（内定率100.0%）。管理栄養士国家試験の合格率は、98.0%（同88.0%）であった。

評価

「卒業研究Ⅰ」および「卒業研究Ⅱ」は、全員が合格し、履修者全体の70%以上が「秀」または「優」となり、熱心に卒業研究へ取り組む優秀な学生が多かったことがうかがえる。また管理栄養士国家試験の合格率の高さからも、順調な学修成果を上げたことが示されている。以上①から③までの評価に基づき、2020年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

3. ディプロマポリシーに関する総合評価

以上の評価により、大学においては、現在のディプロマポリシーに実情に合わない不適切な点はないと判断される。ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない学生には学位を授与していないと言える。